

千葉大学医学部同窓会報 第94号 題字 鈴木 五郎

編集兼発行者

千葉大学医学部

るの は な 同 窓 会 報 編 集 部

〒280 千葉市支鼻1-8-1

千葉大学医学部内

るの は な 同 窓 会

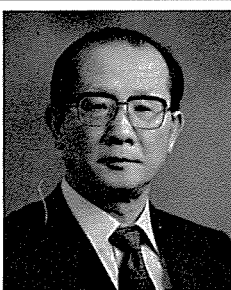
電話千葉 (0472) 22-7171 内線2038

千葉大学長就任の挨拶

吉 田 亮 (昭23卒)

八月一日付をもって、本学の第九代学長に就任することになりました。医学部は勿論、全学の教官の多くの方々の支持によるものであることを考えますと、光栄の上もなく、責任の重大さを感じております。

本学は諸先輩の努力により、総合大学として順調に発展し、既に四十年の歴史を重ねて参りました。九学部部に教養部と四研究センタ



ーを有し、学生数一万二千余という、全国でも屈指の国立大学に成長しました。まさに、「総合化への道―千葉大学三十年史から―」は、達成されつつあると言えましよう。

臨教審の第二次答申に、芭蕉の言葉を引用して、教育における「不易」と「流行」というくだりがあります。即ち、教育には、時代をこえて変わらないものと、時代とともに変化していくものとがあり、この両面を統一することが大切である。前者のみに固執すれば、教育は独断、硬直に陥り、後者のみに流されれば、教育は軽佻浮薄に

医学部長就任に際して

村 山 智 (昭26卒)

八月一日付で医学部長の辞令をいただきました。木村教授のあとを受けて、第十九代目の医学部長として、二年間の任期を誠意をもってつとめる所存でありますので、よろしく御指導、御鞭撻をいただきたくお願い申し上げます。



大学の入学試験の変革への対応がいよいよ重い荷となる時期であります。教務委員長としての経験を生かして、明後年からの「大学入試センター試験(新テスト)」

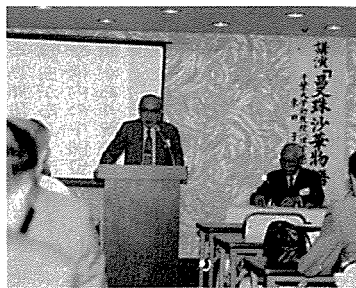
を置くべき段階にいたっております。大学院の充実と発展、特に、文科系及び看護系大学院の整備、部局間の枠をこえた学際的研究の展開、各部局に芽生えている特色ある教育と研究の促進、各部局の持つ改革のエネルギーの尊重といった具体的な方策を考えておりますが、そのためには、全学の教組を集め、強い意志と先見性と行動力を大学として持つ必要がありましよう。

るの は な 同 窓 会 の 皆 様 方 の、ご健康をお祈りするとともに、本学の発展のために、ご指導、ご支援をお願いし、挨拶いたします。

昭和63年度 るの は な 同 窓 会 総 会 開 催

名尾良憲先生(昭13卒)次期会長

昭和63年度るの は な 同 窓 会 総 会 が6月18日(土)、千葉市京成ホテルで開催された。総会には村山智常任理事の司会で、小林金市会長の挨拶により始められた。木村康医学部長の医学部近況報告、井出源四郎学長の大学近況報告、萩原彌四郎常任理事の昨年度会務報告があった。昨年度物故会員56名の冥



変えることが後に方向違いを生むこともありまうので、行方を見定めて少しずつ変えたいと思います。基礎、臨床医学いづれの立場にも若さや静けさが大切だと思います。その意味で中堅世代のよりよい生き方に心を用いたいと考えています。情報時代は、実は不都合でもあり、道の選択のよさが強くいられます。鎖国の時代にもみことな文化の花は咲きました。国際化の叫ばれる中で、捨てるもの、どうしても守らなければならないものを今考えています。

福を祈り黙禱を捧げた後、小林会長の議長に選出されて議事に移った。金子敏郎常任理事より昭和62年度決算報告、昭和63年度予算案(第二面)の提出と説明があり、原案通り承認された。

また、萩原常任理事より本会役員改選案が出され全会一致で承認された。これにより次期会長に名尾良憲先生が就任される事になった。また、国井光智副会長より小林金市先生を名誉会長に推薦したいとの提案がなされ、承認された。さらに、岡村篤、石川清、奥田邦雄、渡辺昌平、佐藤彦三、本間三郎、新井正および大谷克己の各先生方を名誉会員に推薦することに決まった。

引続いて本学理学部、栗田子郎助教による「曼珠沙華物語」と題する記念講演が行われた。先生は曼珠沙華として親しまれている彼岸花のルーツ、種類、分布、地方による名称の違い等、染色体からフォークロアまで美しいスライドを使い詩情豊かに説明された。

懇親会は越川衛常任理事の司会の下で、華やいだ雰囲気の内に進められた。今回学長に当選された吉田亮先生、名尾良憲新会長、勲五等瑞宝章を受けた小高四郎先生、本学整形外科教室教授に昇任された守屋秀繁先生、小兒科教室講師に昇任された河野陽一先生のお話やご挨拶等、和やかな交歓が続いた。

会 計 報 告

昭和62年度 決 算 報 告

A. 収 入 の 部

科 目	予 算 額	年度末収入計	差 引 高 (△減)
財 産 収 入	600,000円	1,946,836円	1,346,836円
会 費 収 入	6,200,000	7,483,000	1,283,000
事 業 収 入	0	213,000	213,000
寄 附 金	100	39,916	39,816
繰 入 金	0	0	0
繰 越 金	3,502,137	3,502,137	0
収 入 計	10,302,237	13,184,889	2,882,652

B. 支 出 の 部

科 目	予 算 額	年度末支出計	差 引 高 (△減)
1. 事 業 費			
会 報 発 行 費	700,000円	500,440円	△ 199,560円
名 簿 発 行 費	0	0	0
新 会 員 歓 迎 費	300,000	300,000	0
顕 彰 奨 学 費	200,000	200,000	0
慶 弔 費	80,000	95,250	15,250
支 部 連 絡 費	300,000	142,100	△ 157,900
小 計	1,580,000	1,237,790	△ 342,210

2. 事 務 費			
備 品 費	300,000円	300,000円	※ 0円
消 耗 品 費	200,000	227,185	27,185
通 信 印 刷 費	2,000,000	1,249,990	△ 750,010
振 替 手 数 料	120,000	112,730	△ 7,270
会 議 費	100,000	50,670	△ 49,330
諸 手 当 費	1,250,000	1,430,527	180,527
退 職 金 引 当 金	60,000	60,000	0
謝 金 費	200,000	101,340	△ 98,660
小 計	4,230,000	3,532,442	△ 697,558

3. 予 備 費			
基 金 繰 入 額	3,000,000円	3,000,000円	0円
予 備 費	1,492,237	730,248	△ 761,989
小 計	4,492,237	3,730,248	△ 761,989
支 出 計	10,302,237	8,500,480	△ 1,801,757
繰 越 額		4,684,409	
基 金 27,000,000+3,000,000=30,000,000円		退職金積立金 60,000円	

※ ワープロ購入

昭和63年3月31日現在

昭和63年度 予 算 案

A. 収 入 の 部

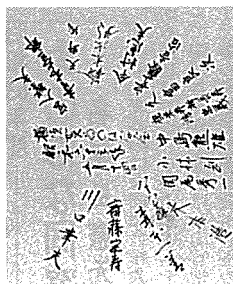
科 目	予 算 額	前年度比(△減)
財 産 収 入	800,000円	200,000円
会 費 収 入	6,200,000	0
事 業 収 入	8,500,000	8,500,000
寄 附 金	100	0
繰 入 金	0	0
繰 越 金	4,684,409	1,182,272
収 入 計	20,184,509	9,822,272

B. 支 出 の 部

科 目	予 算 額	前年度比(△減)
1. 事 業 費		
会 報 発 行 費	700,000円	0円
名 簿 発 行 費	7,750,000	7,750,000
新 会 員 歓 迎 費	300,000	0
顕 彰 奨 学 費	200,000	0
慶 弔 費	100,000	20,000
支 部 連 絡 費	300,000	0
小 計	9,350,000	7,770,000

2. 事 務 費		
備 品 費	300,000円	0円
消 耗 品 費	700,000	500,000
通 信 印 刷 費	2,500,000	500,000
振 替 手 数 料	250,000	130,000
会 議 費	100,000	0
諸 手 当 費	1,900,000	650,000
退 職 金 引 当 金	71,000	11,000
謝 金 費	200,000	0
小 計	6,021,000	1,791,000

3. 予 備 費		
基 金 繰 入 額	3,000,000円	0円
予 備 費	1,813,509	321,272
小 計	4,813,509	321,272
支 出 計	20,184,509	9,822,272
基 金	33,000,000円	
退職金積立金	131,000円	



の説明があり興味深いものがあつた。また、川口幸夫海上自衛隊横須賀地区病院長(昭和32)の新築病院の様子や天野茂先生(昭和27)の防大医務室での活躍などが話題となった。

参加…医学10名、薬学5名。

(青木太三郎(昭和28)記)

横須賀あのはな会 医薬合同同窓会

各地あのはな会だより

あのはな同窓会役員

(昭和63年度、昭和65年度)

名誉会長 鈴木 五郎(大11)

会長 小林 金市(昭8)

副会長 名尾 良恵(昭13)

井出源四郎(昭19)

貫洞 一夫(昭22)

渡辺 武(昭27)

常任理事 山上健次郎(昭17專)

国井 光智(昭21)

渡辺 誠之(昭21)

伊東 和人(昭23)

越川 衛(昭23專)

大池 和祐(昭24)

長沢 仁一(昭24)

長沙 達也(昭24)

村山 智(昭26)

関根 博(昭26)

岡本 昭二(昭27)

金子 敏郎(昭28)

川辺 兼美(昭28)

大藤 正雄(昭29)

椎名 益男(昭33)

藤森 宗徳(昭37)

小島 莊明(昭40)

徳永 叔(昭42)

内田 成和(昭17)

小野清四郎(昭31)

(理事、評議員名略)

江戸川なのはな会 支部だより

昭和62年度江戸川なのはな会総会は、昭和63年5月19日、新小岩の「有田」で開催された。来賓として高見澤裕吉附属病院長と大藤正雄教授にお出で願った。開会に先立って昨年度鬼籍に入られた、中村民比古(昭13卒)、佐藤正彦(昭19卒)、佐々木守道(昭24卒)の三先生の冥福を祈って黙禱を捧げた。藤山幹事の司会で型通り総会が終った後、来賓のお話に移った。高見澤先生からは、大学病院の近況報告、さらに千葉県の人口、医師数推移、将来の医師需給バランスの問題に至る迄、高齢化社会をふまえたお話があった。次いで大藤先生より、胆道結石の非観血的破砕法等、世界のトップレベルをいく第一内科教室の現況について、頼もしいお話があった。

江戸川区医師会長の山上健次郎先生より、江戸川区に於いては笠川副会長はじめ医師会の要職に本会々員が多数着き、医師会運営に大きな役割を果たしているが、地区医師会の性格上、学園に偏らない為の御苦労も話された。次いで各自の自己紹介、近況報告等、和気藹々の内に会は終了した。本年度から役員交代となり、新会長は今井力、幹事に滝澤明祐、会計に山本成元がそれぞれ着任した。出席者・小竹稔夫(14)、山上健次郎(17専)、小倉一郎(20)、今井力(22)、笠川猛(22)、市川芳郎(25専)、玉置勉(25専)、中村

憲三(25専)、鈴木正一(28)、青木淳(30)、伊谷昭幸(30)、藤山嘉信(30)、村瀬靖(30)、滝澤明祐(31)、会美知明(31)、福田陽(32)、山本成元(34)、岩倉弘毅(37)、小野健次郎(39)。(卒年)

〔岩倉弘毅記〕

退任挨拶

なのはな同窓会
名誉会長 小林 金市

本年度の総会において、同窓会長を、慣例により次の当番東京の名尾良憲君と交代した。役員ならびに会員各位の絶大な御協力により、九年の任期を大過なく終えることができ、更に名誉会長に推され、誠に感謝に堪えない。現在、三千百名を越す会員の会費納入と三千五百万円以上の基金を得て、本会も安定した運営が出来るようになり、御同慶の至りである。

医師過剰を迎える21世紀こそ、同窓会の真価が問われる時とされる。本会の発展と会員各位の御健康を祈念して、退任の挨拶とす次第である。



クラス会だより

白兔会(昭和17年卒)

卒業45周年記念クラス会

「我等が入学したのは昭和14年閏年、皇紀二五九九年で九十九は百引く一で白。また白兔は大国主命の古事以来、医療に深い因縁がある。よってクラス会名を白兔会とする。」

卒業生79名は殆ど直ぐ軍務に服し民間に残れたものは数人に過ぎない。従って戦死者は11名を数へ、以後それにつながる物故者は25名となった。卒後45周年を迎えた62年9月26日、記念のクラス会を千葉ニューバークホテルで開い



た。集まる者17名、現存54名、その中には卒後初めての稲村君、病苦を押して奥様付添で参加された数馬君、遠路秋田から出席の下山君など。例によって近況報告、思い出話に時を忘れた。数馬君の声が細くて聞き取れず心細い思いがした。現在6名が病床にある。白兔会は昭和30年代より年二回以

上の会合をもち、会誌も七冊となり、ほぼ五年毎に作って近況、心境、随想などで交流を深めている。

70才の坂を越え、お互いの健康をばけまし合って次回を期し散会した。私事で恐縮ながら、小生鍋木憲作の湯呑に兎図と白兔会45年と記して皆に配り興を供えた。

出席者・小倉重成、稲村満、下山賢次、大村光、浦部嘉夫、数馬欣一、佐久間武司、浦田久、水間正冬、小林清、森島猪二、藤村満寿夫、吉江俊夫、高橋和夫、宝積榮、西沢英三郎、内田成和

〔内田成和記〕

みふみ会(昭32年同期会)

卒業30周年記念会報告

みふみ会(昭和32年卒業同期会)の卒後30周年記念会及びパーティが昭和62年11月7日千葉市のホテルニューツカモトで行われた。

これに先立ってマイクロバスで大学やポルトタワー等を十数人で見学した。近年とみに発展した千葉市街をポルトタワーから見て時の流れに感慨を深めた。記念会では今回の事業報告があり、まず発足当初からの同期会規約の一部改定した。本会の本部を大学小児外科に置き、代表幹事を高橋英世君とした。記念植樹について平嶋より、昭和62年1月体育館前に紅梅八本を植え大学に寄贈した旨、報告があった。ここには既に白梅が植えられており紅白の梅林となった。次いで窪田君より記念誌の編

集報告があった。これは巻頭グラビア、恩師の寄稿文、同期生の随筆、絵、俳句などで約百七十頁のものですでに配布済みである。

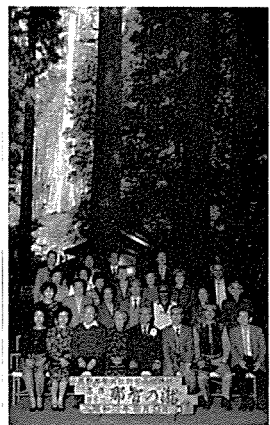
祝賀パーティには御招待した恩師や事務の方八名とクラス会五十名が参加した。御出席賜った恩師は小林龍男、百瀬剛一、北村武



第42回なのはな四葉会

(昭20専卒)総会報告

日時・昭和62年11月21・23日。
場所・第一日、紀伊勝浦ホテル浦島泊。第二日、白浜温泉ホテル古賀の井泊。参加者・同級生14名同夫人10名。特別参加・元長崎大学教授安中正哉先生御夫妻(昭5卒) 総計26名。四葉会は昭和20年卒業



四葉会 那智の滝にて
安中先生(前列中央)を
囲んで

横川宗雄の諸先生、また事務の方は齋藤新一郎、大賀信子、青柳みつ子、井深順子の諸氏であった。皆様御健でなによりであった。われわれのクラスは卒業時83名であったが、既に六名が他界している。とくに本会を前にして井上駿一君が亡くなり、パーティも今ひとつ盛り上がり欠けた感があった。現在77名中40名が勤務医、残り37名が開業医である。パーティは寺尾君の開会挨拶で始められ学生時代の写真をスライドで写し当時を懐古した。小林龍男先生の御祝辞をはじめ諸先生のお言葉をいただいた。村上君の木更津甚句、中村常太郎君の山中節の披露により会は一層盛り上がった。来る35周年にはさらに多くの人々が参加されることを祈念する次第である。

〔平嶋毅記〕

後、終戦時の二回を除いて毎年開催している。解剖学をお教え頂いた安中先生には、毎年当会に御夫妻で参加頂いている。今年はダイヤモンド婚で、先生は米寿、奥様は喜寿と伺った。お二人とも極めてお元気である。来年度は瀬戸大橋で開催の予定。

〔末永直光記〕

新任教授紹介

杏林大学医学部第二外科学教室教授

花岡 建夫 (昭33卒)



美しい玄鼻台を去って、はや15年、学生時代を含む20年間の千葉大学時代では多数の先生や先輩に御指導いただきましたことをここに深く感謝申し上げます。

昭和33年に卒業後、中山教授のもとで外科学を、大学院生として、は川喜田教授のもとで細菌学を勉強させて頂きました。その後佐藤教授のもと、現岩崎筑波大教授を中心とした移植グループで移植をやり、昭和48年四月から杏林大学にきて、鍋谷教授に御指導いただいたて居りますが、現在は消化器外科を中心に特に、乳癌を含む癌に興味を持って修業中でございます。

杏林大学は東京都三鷹市にあり、新設第一回私立医大で、経済的な面を含む種々な問題をかかえて現在までやって参りましたが、保健学部、社会学部、外国語学部を有する大学としてようやく完成期を迎えようとしています。昨年より教務委員に任命され、学生の教育に頭を痛めて居ります。教育は結

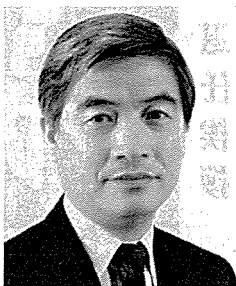
す。他に約30名の杏林卒医局員、又すでに教室で勉強して第一線で活躍中の同門会員も約20名に達しています。

昨年は鍋谷教授が日本消化器外科学会々長となり、教室がこれを主催し好評のうちに終了しました。今後も「ゐのはな同門会員」の誇りを持って、力を合わせ立派な教室を造って行きたいと考えて居りますので、何卒よろしく御願い申し上げます。最後に皆様方の御多幸をお祈り致します。

* * *

千葉大学医学部整形外科学講座教授

守屋 秀繁 (昭42卒)

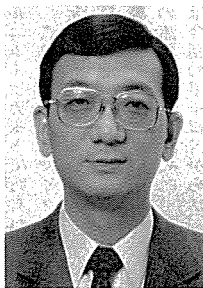


世界的なものになされました。私は丁度井上先生が教授になられた昭和四十三年に入局し、井上先生を始め多くの先生方に御指導頂きました。あらためて感謝申し上げます。

この度、医学部教授会にて整形外科学講座教授に選出され、五月二十一日付をもって辞令をいただきました。初代鈴木次郎教授、二代目井上駿一教授に次ぐ三代目としてその責任の重さを痛感しておりますと共に、昨年八月五日に井上教授が緊急入院する迄は全ての研究、診療、教育を井上教授の御指示の下に行っており、急激な環境の変化に戸惑っている次第です。恩師故井上駿一教授は三十八才の若さで教授に就任され万人の認める才能を持って整形外科教室を

んじ、研究の為の新しい発想を尊重してゆきたいと思っております。そして世界に活躍する人材を一人でも多く輩出し、教室の名を高められればと願っております。初代、二代目共、志途中にて逝

東京女子医科大学母子総合医療センター教授
中 林 正 雄 (昭43卒)



かれ、その為に成し得なかった大事もありました。今後は同門三百名の方々と力を合わせて努力していきたいと思っておりますので、旧に倍します御指導御鞭撻をお願い申し上げます。

母校は遠くて近きもの

慶応義塾大学医学部解剖学教室教授

川村 光 毅 (昭36卒)



この度、慶応義塾大学に勤務することになりました。故郷の関東に住むのは18年ぶり、この間、遠くから母校の発展ぶりを眺めておりました。多少、天邪鬼な私は納得しかねる先輩からの頼み事を何の気がなくお断りできる状況に安住し続けておりましたので、何となく母校には近づき難い気持ちになっていました。育ててくれた学校というものは、磁石のように摩訶不思議な力があるようです。

これは母校愛の正しい発露の下ではすばらしい力となるのですが、妖怪な邪曲が矮小化されて入ってくる困った発展阻害因子ともなることや、「反グレシヤム法則」が紳士的に作用している所では、すくすくと人物が成長するものだということを、実感として学んできました。

千葉大学では良質な栄養源を吸収し、医学の基礎を勉強できたことに感謝しています。『大人になっても子供のナイーブな気持ちをもち続けるように』と言ったのはシユワイエル博士ですが、同時に、怒りの気持ちを醸成することも大切だと教えられました。脳の研究をしてから、再び臨床 (第五面へつづく)

臨床成績の向上は国内外で注目されておられ、活気あふれるセンターです。

臨床研究のみならず、基礎研究の分野での発展も活発で、私達スタッフは国内外でのシンポジウム、講演を担当し、充実した研究成果をあげています。

当大学にはゐるのはな同窓会の先生方が多数いらして公私にわたってバックアップしていただいております。あらためて同門のありがたさを感じております。

まだまだ未熟なセンターですが先生方のご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

(第四面よりつづく)

医にもどると決意して以来20数年になりすが、今は神経科学の教育に力を入れたらと思うております。研究面でも一仕事しない内は初志を貫徹できそうにもありません。私はどちらかというと、精神という言葉よりも高次神経活動の所産という表現を好むタイプですが、偏見はもっていない積りで、さりとてした御交誼を頂けましたら嬉しい限りです。

【略歴】昭和36年卒、昭和45年秋田大学助教授、昭和48年岩手医科大学教授、昭和60年岡山大学教授、昭和63年慶応義塾大学教授。

大谷克己教授
本間三郎教授
石川清文教授

合同退官記念式典

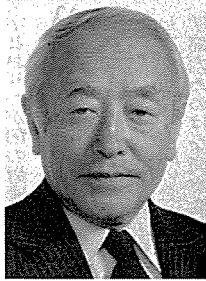
本年三月定年退官された大谷克己教授(解剖学第三講座、昭和21金沢医大卒)、本間三郎教授(生理学第一講座、昭和21卒)および石川清文教授(衛生学講座、昭和23卒)の医学部主催による合同退官記念式典が去る3月19日附属病院第一講堂で挙行された。石川先生は病氣療養中のため、残念ながら欠席された。式典は木村康医学部長、井出源四郎学長、小林龍男名誉教授代表、小林金市同窓会会長、白井敏雄第三解剖学教室同門代表、山崎衛第一生理学同門代表の祝辞が、第三解剖学教室、徳永叔助教授、第三生理学教室、中島祥夫助教授、衛生学教室、平野英男助教授によりそれぞれ謝辞が述べ

られた。次いで東京大学理学部教授(人類学) 埴原和郎先生の「日本人の起源」と題する記念講演が行われた。

記念式典に引続いて、附属病院第三講堂に会場を移して祝賀パーティーが行われた。先輩の名譽教授と同僚の教授方から数々の祝辞が述べられ、主賓の大谷先生御夫妻、本間先生御夫妻を囲んで、なごやかな歓談が続いた。4月以降、大谷名誉教授には昭和大学客員教授、千葉県文化財センター嘱託、千葉県立衛生短期大学非常勤講師として、本間名誉教授には東京工業大学非常勤講師として、それぞれ御活躍されておられる。また、退官記念として庭石六基を医学部正門前に寄贈された。

筑波大学

牧 豊教授 退官記念行事報告



筑波大学牧豊教授(臨床医学系脳神経外科)は昭和63年3月31日付で御退官されました。牧先生は昭和24年に千葉医科大学を御卒業され、同27年より千葉大学医学部神経精神医学教室主として器質性脳疾患の臨床を中心とした研究をされ、昭和45年4月に新設の脳神経外科教室助教授を経て、昭和50年筑波大学教授となられ、新設

大学の設立に当たられました。赴任後は筑波大学附属病院初代救急部長、さらには副院長として学内の医療整備・拡充、地域医療との連携の確立に奔走され、成果をあげられました。また、昭和59年より61年まで動物実験センター長として本学における実験研究遂行の円滑化を計られました。御退官に当たって、昨年11月11日に先生のライフワークでもあります小児脳神経外科領域の主題「頭蓋骨早期癒合症」と題する最終講義が行われました。学生の「桐の葉」の歌声と花束に送られて講堂を去るという感動的なものでした。本年1月には、先生の好きな梅の記念植樹が、6月1日には筑波第一ホテルで退官記念パーティーが盛大に挙行されました。先生には4月以降は筑波大学名誉教授、また筑波メデイカルセンター副理事長さらに関連病院の顧問として、臨床の場で以前にもましてご多忙な日々を送られています。

【筑波大学助教授 能勢忠男(昭和42卒)記】

波田野基一先生の ご退官にあたって

微生物学第一講座
教授 清水文七 (昭和33卒)

金沢大学がん研究所長波田野基一教授には本年三月末日をもって定年退官されました。先生は昭和二十三年本学を卒業後、細菌学教室に入られ喜田教授のもとで細菌学・ウイルス学の研鑽を積まれ、昭和三十一年金沢大学医学部微生物学教室助教授に就任された。先生は千葉時代に手を染められたファージの溶原化に関する研究を動物ウイルス学の分野に導入され、ウイルス持続感染機構の解明

本年三月一日付で独協医科大学教授に昇任された丹羽 章先生より近況報告を頂いた。

五月十二日に今年はじめに郭公を聞ききました。赴任した当時と比べ、都市化が随分進みまし、たが、それでも緑が多く、郭公が宿る木に不足はないのに、このコモチヤノマチに来る郭公は人工物が好きらしく、電柱やテレビのアンテナに好んでとまります。今年一番の郭公は、我家の前の家の、ひとときわ

独協医科大学微生物学教室教授

丹 羽 章



物理学教室助教授に就任された。先生ご夫妻は東京都のご出身ではあるが、爾後金沢をこよなく愛され、じっくりと腰をすえられて昭和三十九年には金沢

をライフワークとされた。この研究は先生の研究への強い情熱に引かれて群がる逸材によつてめざましい進展をとげている。このことは金沢大学を舞台に北陸各地にウイルス学の基を礎かれることとなった。昭和五十四年には北陸ウイルス病研究会を創設され、



北陸ウイルス病研究会を創設され、

先生は千葉時代に手を染められたファージの溶原化に関する研究を動物ウイルス学の分野に導入され、ウイルス持続感染機構の解明

会は年ごとに盛大となり多くの医学徒のウイルス学への理解を深めできた。昭和五十九年より所長の要職に

起りました。一番の郭公がきてから三日位後のことでした。鳴き声が急に乱れたのです。外に出て見るとテレビアンテナの頂上で二羽の郭公が場所取りをしているのです。しばし争っていました。やがて歌の下手な郭公が侵入者を追い払いました。郭公も、縄張り争いの好きな鳥のようです。

安村美博教授と獨協に來て十三年。教室のセツアップに明け暮れた初期の時代をへて、落ちついて、教育・研究にそしむかたたら、自然に囲まれた中で、自然に目を向けるがら過ごしています。

寺島東洋三先生

(昭和24卒)

原子力安全委員会委員に就任
科学技術庁放射線医学総合研究所長寺島東洋三先生には、本年5月同所長を定年に辞されたが、この度、総理大臣の諮問機関である原子力安全委員会委員に就任された。

千葉大学長 吉田 亮
(昭23卒)

■新名簿予約申し込みのご案内■

同封の振替用紙をご利用下さい。三千円の振り込みをもって予約受付とします。なお、その

他の送金方法でも結構ですが、その際は『名簿予約金』と明記して下さい。お問い合わせは医学部内のはな同窓会事務室（〇四七二〇七一一内線二〇三八）今泉までお願い致します。

昭和62年秋
昭和63年春

文部大臣表彰 溝部孝二先生 (昭27專卒)	文部大臣表彰 加瀬幸雄先生 (昭22卒)	厚生大臣表彰 岩垂信先生 (昭26卒)	藍綬褒章 高澤文四郎先生 (昭23專卒)	紫綬褒章 白壁彦夫先生 (昭20卒)	勲五等瑞宝章 小高四郎先生 (昭14卒)	勲四等瑞宝章 勝正敏先生 (昭11卒)	勲四等瑞宝章 天野富馨先生 (昭10卒)	勲四等瑞宝章 水間正冬先生 (昭17卒)	勲四等旭日小綬章 藤森邦俊先生 (昭16年3月卒)	勲三等瑞宝章 丸山俊男先生 (昭15卒)	勲三等旭日中綬章 三浦義彰先生 (名誉會員)	勲三等旭日中綬章 小張一峰先生 (昭15卒)
-----------------------------	----------------------------	---------------------------	----------------------------	--------------------------	----------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------------	----------------------------	------------------------------	------------------------------

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a patterned tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression. The background is slightly out of focus, showing what appears to be a bookshelf or office setting.

先生は、謹厳寡黙、おかしがた
い風貌のなかに人情味あふれる暖
かさを秘めた方でした。社会のた
めに、ご自分の学問をもって奉仕
することを最上の喜びとされ、物
事の判断に私心をまじえることを
激しく斥けられた方でした。

大学の同級生として、またともに同じ学問を学ぶ者として、先生から実に多くのことを学ばせていただきました。ただただ感謝申し上げますとともに、先生のご冥福をお祈りいたします。

昭和63年2月～6月

千葉大学長
吉田 亮（昭23卒、公衆衛生学、
教授）
千葉大学医学部長

村山 智(昭26卒、薬理学、教授昇任)

花岡建夫(昭33卒) 杏林大学外科学第三
守屋秀繁(昭42卒) 整形外科学
中村正雄(昭43卒) 東京女子医科学大学母子総合医療センター
千葉胤道(昭39卒) 解剖学第三(佐賀医科大学解剖学教授)
助教授昇任
堀江 弘(昭44卒) 病理学第一
黒田紀子(昭40卒) 眼科学
佐々木望(昭41卒) 小兒科学
真家雅彦(昭35卒) 小兒外科学
今野昭義(昭36卒) 耳鼻咽喉科
中田瑛造(昭38卒) 泌尿器科学
梶田 隆(昭40京都府医大卒) 肺病研究施設第二臨床研究部
講師昇任
飯島幸雄(昭41卒) 眼科学
大沼直躬(昭42卒) 小兒外科学
河野陽一(昭48卒) 小兒科学
豊田直二(昭49茨木大理工) 解剖学第一
厚生省
関東信越地方医務局長
佐々木輝幸(昭34卒)
国立千葉病院長
伊東和人(昭23卒)

宮田恒次	篠田静雄	三輪舜	小林郷三	矢島重男	川平正敏	増子六郎	太田庄司	石塚正治	伊藤忠勝	井上駿	湯田好一	村松爽	池田吉太郎	山崎茂	相澤八郎	飯島民雄	宮入正人	松村義男	加藤文二	金子潮	藤沢俊雄	小倉重成	渡辺昇	芦澤美之	市川信夫	赤澤嘉三郎	出津新平	数馬欣一
(昭23)	(昭9)	(昭10)	(大9)	(大12)	(昭23)	(大12)	(昭24)	(昭18)	(昭13)	(昭32)	(昭11)	(昭14)	(大14)	(昭47)	(昭12)	(大4)	(昭14)	(昭23)	(昭10)	(昭9)	(昭16)	(昭17)	(大6)	(昭5)	(昭8)	(昭14)	(昭11)	(昭7)
62.7	62.7	62.7	62.8	62.8	62.8	62.9	62.9	62.9	62.9	62.9	62.10	62.10	62.10	63.11	62.11	62.11	62.12	62.12	62.12	62.12	62.12	63.1	63.1	63.1	63.2	63.2	63.2	63.3
25.19	25.25	29.29	5.5	15.15	20.20	6.6	11.11	20.20	9.9	21.21	7.7	10.10	25.25	15.15	28.28	30.30	12.12	12.12	5.5	10.10	1.1	1.1	5.5	23.23	4.4	6.4	2.2	

学生自治会による「あの祭」の行事および募金活動に、本同窓会は一切関与しておりません。

編集後記

☆七月末の教授会で、生理学第二講座教授に、中島祥夫助教授の昇任が決まりました。

☆会員同士を結び絆ともいえる名簿がまもなく出来あがります。予約販売ですので、今すぐ予約手続きをお取りください。

☆紙面の都合で、二、三のクラス
会報告や書評を次号に見送らざる
を得なくなったことをお詫びいた
します。編集後記のスペースも取
れないという嬉しい悲鳴をあげて
おります。

〔徳永 毅〕

余勲、褒賞、昇任、その他祝事に關係された先生は是非同窓会事務室、今泉まで御一報ください。こちらでも絶えず注意しておりますが、ニュースに接し得ない事態もあります。お喜びはなるべく早く、同窓の皆様にもお分けしたいと思しますので、御協力の程、お願い申し上げます。

〔編集部〕